

乳幼児教育の質の向上 ニュースレター

朝来幼稚園公開保育を実施しました。

参加園・校

中保育所	倉梯幼稚園
池内幼稚園	さくらこども園
志楽幼稚園	昭光保育園
岡田こども園	タンポポこども園
シオン幼稚園	ルンビニこども園
橘幼稚園	うみべのもりこども園
舞鶴こども園	朝来小学校
志楽小学校	

朝来幼稚園において公開保育を行いました。園長先生のご挨拶の中では、「遊びは学びの第一歩。遊ぶことは学ぶこと。こども達が主体的に遊ぶにはどうしたらよいかと、日々環境構成を考え模索してきた。こども達は何を望んでいるのか、どのようにしたら学びが深まるのか。寄り添ってよさを認め次にどうするのかは、教師の感性が大切であると考えている。質の高い保育とはどういうことなのかを参加者の皆さんと一緒に学んでいきたい。」と、今回の公開保育をきっかけに、職員一丸となって保育の改善に努力されてきた思いが感じられました。

今回は、複数年に渡り指導いただいております、和洋女子大学の田島大輔先生をお招きし「環境を通して行う保育（遊び）の中にある試行錯誤するこどもと保育者の意味」についてご指導いただきました。

乳児クラスの様子

田島先生の
助言より

〇興味のあることだから何度も試したくなる

安心できる人、場所

〇乳児、特に0歳はこどもが発信してからの応答を大切に



好きな玩具を持って、安心できる保育者とやりとりを楽しむ様子が見られました。丁度つかまって歩ける高さの台を用意してもらい玩具に触ったり、伝い歩きをしたりして楽しんでいました。独り歩きが楽しいこどもは、指差しをして欲しい棒を手に入れ、廊下で棒を床に器用にすべらせ小走りすることを楽しんでいました。

1歳児と2歳児のテラスにはそれぞれ、転がして遊ぶ手作り玩具が設定されており、ボールやどんぐりなどの自然物などが置いてあります。1歳児は保育者に見守られながら、黙々と転がすことを繰り返し、2歳児はそれぞれで転がすことを楽しみつつ、友達とも場を共有して、集中して繰り返している姿が見られました。

自分で遊びも場も選ぶ

〇2歳児は、どこでもごっこ遊びが楽しめるように、持ち運びできるマットや、敷物などを用意するとよい。

〇保育者は優しくこどもに寄り添っている場面が多かった。今後は、このような意図で、こう関わろうと自覚的に関わるとさらによい



環境はこどもの姿を見て、再構築を！

秋の自然物や、ペットボトルの容器などがこどもの手の届きやすいところに準備されており、こども達はそれぞれ気になった素材や道具を手に取り、保育者や友達と関わったり、自分で繰り返し試したりする様子が見られました。保育者と一緒にジュースを買いに行くなどのごっこも楽しんでいました。

〇遊ぶ場所の広さ、年齢発達、素材の大きさ、種類など、こどもの遊ぶ姿や天候などを見て、臨機応変に対応するとよい。



テラスに行った一人の0歳児は、2歳児が砂場で遊んでいることに興味を抱き、一緒に砂を触って感触を楽しんでいました。1歳児が0歳児の保育室で、また2歳児が1歳児の保育室で遊ぶ姿があり、同じ乳児のクラスとしてクラスを超えて、保育者同士がこどもに関わることを大事にしている様子が見られました。

2歳児の保育室では、毛糸や様々な素材を自分なりに見立てて、場を共有しながらそれぞれで黙々と遊ぶ姿が見られました。1歳児は、こどもの興味に応じて小さなコーナーで区切られており、保育者と一緒に簡単なやり取りする場面がありました。

テントに溜まった雨水を落とす保育者に応援の掛け声をかけていた2歳児は自分達もスコップを持って、保育者と同じことを模倣する様子が見られました。



幼児クラスの様子

ホールでは、4歳児を中心にコンサートごっこが繰り返して行われていました。ステージに立って歌って、踊っている子、カメラマンになりきって、カメラを操作する子、レフ板を持ってる照明係、取り仕切る総合マネージャー、応援する観客。バックヤードの係とそれぞれが自分のやりたいものになって一緒にコンサートを楽しんでいる姿が見られました。タブレットを持っている参加者の先生に、マネージャーが「撮影お願いします！（笑）」と巻き込む様子も見られました。

みんなが主役！それぞれの自己発揮！

○歌って踊っているだけではない、それぞれがやりたいことで参加していてそれぞれが主人公。

○バスに乗って運転している子どもだけが楽しんでいるのではない。バスを修理したり、バス停を作っている子どもも主人公。

○興味のあることだから何度も繰り返し試したくなる。そこには環境がある。



4歳児保育室横のテラスでは、食紅を使った色水と、ポスターカラーで作った色水のそれぞれ変化を楽しんでいる様子が見られました。

透明度の高い食紅のところではきれいな色にしたいという思いが感じられました。ポスターカラーのところでは「〇〇みたい」と何かをイメージして楽しむ様子を感じられました。スポイドが用意されていることで少しずつ量を加減しながら色水を落としていました。



ホールのステージ横では、5歳児を中心に、バスの修理工場が運営されていました。電車ごっこから始まり、友達のアイディアで、バスごっこに変わってきて、異年齢も巻き込む大きなプロジェクトになってきた様子でした。園内の各場所に少しずつ増えてきたと思われる、バス停が設置してありました。また車体にどんぐりや葉っぱをどうしてつけようか何でつければいいのか、とみんなで相談して修理していました。

また保育室では、ホールに行く前のアイドルが、相談やりハサールをしていました。4歳児ならではのこだわりで集中して小道具づくりをする子どももいました。



3・4・5歳児それぞれの保育室で遊びを振り返る時間がありました。5歳児のクラスでは、段ボールにどんぐりをつけようとボンドやテープを使った、123（数えて）押さえたのに無理だった。落ちてしまったという話から、今度はグルーガンを使いたいという話になりました。けれど以前グルーガンで熱い思いをした子（グループワークでの担任保育者の話でわかりました）が「グルーガンは溶岩みたいに熱くて危ないからダメ！」「知っている僕しか使ったらダメ」など強い主張を繰り返して「でもやりたい」思いの子どもとやり取りが続いたり、どんぐりに芽が出ていてそれをどうしようかということや、バスがスピード違反していたから「2キロ（時速？）で走ってほしい」など思ったことや気が付いたことを自由に話しており、日頃から振り返りながら、遊んできたことがうかがえました。

3歳児は、ホールのバスごっこに乗客として参加したり、保育室に限らず好きなどころで過ごす様子が見られました。保育室のままごとのところでは保育者が一緒になって、遊ぶ中でやり取りをしたり、子ども同士をつなぐように関わる姿がありました。

今まで遊んできて段々と大きくなっていった道路遊びのシートでは箱で電車を作って見立てたり、ブロックをつなげて電車に見立てたりと自分なりの楽しみ方で遊ぶ姿が見られました。お店ごっこでは3歳児なりに「いらしゃいませ」「ペイペイも使えるで」となりきることを楽しんでいました。



4歳児はコンサートごっこや、色水ごっこでの気付きを話していました。ゼリーの感触について「ぶにぶにしてみた」「卵パックから出す時にこわれてしまった」など気が付いたことを話していました。保育者はどのクラスも子どもの思いを受け止めたり、問いかけたり、共感したりして感じたことや考えたことを安心して表現できるように関わっていました。



いい考えだね
これからどう
したい？

何色と何色を
混ぜたの？



年齢発達によって保育室のコーナーの大きさを配慮

○秋から自然物などいかして作るコーナーを充実させていき、保育者が作りたいものを見せて、提案していくとよい。

グループワーク・田島先生の指導・助言より

今日のテーマ『環境を通して行う保育（遊び）の中にある

試行錯誤する子どもと保育者の意味』

あそびはまなび
の第一歩！



どう関わったらいいの？先生の
試行錯誤が質につながる。そして
やっている意味を可視化して保護
者に伝えることが大切。

どんな子どもに育っ
てほしい？



○試行錯誤するのは子どもだけではない。保育者も試行錯誤する共主体が大切。時代とともにパラダイムシフト（それまで当たり前とされていたものの見方や価値観が根本的から変わるほど激変する）している。

子どものままごとを見ていても、電子決済を真似たり、カメラもスマホの自撮りになったりしている。

○OECDラーニングコンパス2030では知識の定着ではなく得た知識を活用して自分はこうしていきたいと思える子どもの育成を記している。

○学習指導要領の改訂に向けて、現代社会では自ら課題を見つけることができないことが課題と言われている。自分はこうしていきたい！自分でやりたくてやってみたと思える子どもに育ててほしい。

○4歳児の保育室の横のたたきで、色水で色づくりを楽しむ姿が見られた。そこにはスポイドが用意されており、子どもが少しずつ色を足して試行錯誤を楽しむ姿があった。自由にやれる環境があるから自らが試したり、気付いたり、友達と応答することができる。教材を工夫することが子どもの探究にもつながる。

○幼児クラスは、ホールでステージごっこをするそばで、パスの修理工場があって、修理していたり、それぞれが自分のやりたいことを友達と関わり楽しんだりしていて、これこそ自己発揮と感じられる姿が見られた。その中で、男児がカブトムシの作り物を背負ってやってくる場面があった。大人から見ても意味の分かることだけでなく、大人は分からないけれど、子どもは分かっている。これがやりたい！という思いを持ってそれを実現できることが大切である。

乳幼児期に何を育てていくか

○乳幼児期の育ちの結果はすぐには出ない。

○大切なことは受容と共感であり、それが土台にあり、子どもと関わり、子どもの姿を見て、「やってみたらどう？」「こっちとこっち入れると面白いかもね」「ここはこういうふうにするといいかもね」「どうしようとしたの？」などそこから提案していくとよい。

○試行錯誤や応答するためには環境が大切であり、環境があるから応答ができる。

○子どもは、「～しましょう」の中では育ちにくい。だから、自ら関わられるよう環境や状況を作っていく。

○心が動くことをその子なりにやれたそのプロセスが大事。



○5歳児の振り返りの時に鼻血が出た子がいた。すぐに「大丈夫？」と声をかける子、ティッシュを取りに行く子、など様々な形で思いを表現していた。しかし、何もしない子が関心を寄せていないわけではないので、形式的なことだけにとらわれないことが大事である。

○5歳児の保育室で、一人で黙々と手裏剣を作っている子がいた。最近手裏剣の折り方を覚えたらしく、手裏剣づくりにハマっていると聞いた。この姿を一人でいて大丈夫なのかと捉えるか、手裏剣についてずっと探究していると捉えるかなら、探究していると捉えたい。

○遊びに上下があるわけではなく、彼なりの充実感、満足感がある。そこを大事にしたい。

○子どもの思いに丁寧に耳を傾け、気持ちや意図、思いがけない遊びに寄り添う。そうした子どもを理解しようとする関係の中で、保育者も変容していく。

○『内向けのごっこ遊びと外向けのごっこ遊び』について、例えば、5歳児のバスごっこについて最初は自分達だけでバスごっこを楽しんでいる。だんだん中身が充実しておもしろくなってくると、今度は、人に見せたい思いが出てくる。それが外向けのごっこ遊びにつながっていく。

2・3歳児は2、3人が分かかって遊んでいけばいい。そこに保育者が付き合っ楽しく遊ぶ。それが内向けのごっこ遊びの充実。そのために2・3歳児は自分達で操作できる、どこでやってもよい、置いておけるものなどを準備するといふ。この内向けのごっこ遊びが楽しく、充実しないと外向けにはならない。

○遊びの発展についてよく聞かれるが、誰にとっての発展なのか。上下、できないでなく、遊びがその子にとって充実しているのか、満足しているのかそこに価値を持ちたい。

公開保育を振り返ってのアドバイス

○乳児、特に0歳児は子どもがやったことに対する応答が大事。子どもが動いたら呼び寄せるのではなく、そばについてやるのが大事。0歳児がテラスに出て、2歳児の砂場に出してもらっていた。子どもが遊んでいる（何かやっている）そばにいて見守ることも大切な関わりである。

○1歳児のころころ転がしは、アンパンマンのボール入れと、透明なペットボトルが用意してあった。1歳児には少し難しいと思われるので、もう少し単純にして半分に切りボールが手に取れる方がよいかもしれない。同じテラスに、2歳児のころころ転がしも設置してあったので、難しいのはそちらで体験するのもよい。

○保育室にテーブルが2つ出してあったが、今日は天候も悪く外に出る子が少なかったため、室内を広く使うためにテーブルを一つにしてもよかった。子どもの姿やその時の状況で、再構成すると良い。

○2歳児は園庭に様々な秋の素材やペットボトルが置いてあった。次に考えることは、置いておくものの質。例えば、500ミリリットルのペットボトルが置いてあったが、大きさは？数は？そもそもペットボトルは置くのか、など子どもの姿を見て再構成するとよい。

○2・3歳児も保育室の中にいろいろな場所でごっこが楽しめるように、マットや敷物（布） 囲いなど置いておくとよい。

★参加者のアンケートより～今後自分の保育に活かしたいこと～

- ・保育者が期待する方向に声掛けするのではなく、受け止め応答するということを意識したい。
- ・園の子どもの姿をじっくり見とりながら必要な環境を整えていきたい。
- ・「やりたい」「やってみたい」思いを大切に環境を工夫し、応答を意識したい。
- ・その遊びがその子にとって達成感や充実感を得ているかを考えたい。また、そのためにはどのような環境が必要か自分自身も探究したい。
- ・子どもが大人を気にせずに、自由な発想ができる保育をしていきたい。
- ・今まで遊びの発展ばかり、意識してしまっていたので、まずは、その子がどれくらい遊びに充実感や満足感を感じているのかを大切に保育していきたい。
- ・意図的に工夫された環境の中で、丁寧に育てられる「学びの芽」を小学校で更に成長させられるように努めていきたい。問いを持つ、粘り強く探究する、わくわくしながら学びをつなげるという姿を目指す時に、今日学んだ、環境づくり、教師の声かけ、指導者自身が試行錯誤すること、子どもを丸ごと受け止めることなど、いかしていきたい。（アンケートより抜粋）